

# 外国人留学生とのキャンパス交流—“視線学”のすすめ—

国際交流学科 3年 小代有希子ゼミナール

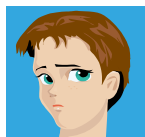
発表者 遠藤未来・瀬戸菜摘・高木董

指導教員 小代有希子教授

## 1. はじめに

日本に暮らす欧米系外国人は、日本人が自分たちを「見る」ことに苛立ち、面白がり、時になぜ、と首をかしげる。このキャンパスで学ぶ留学生たち—とくにアメリカからやってきた学生たち—は「僕たちは日本人にしょっちゅうに見られてる」とよく言っていた。彼らの交換留学を斡旋する機関 ISEP のホームページには「日本に行ったら見られることを覚悟しましょう」と書いてある。しかも「ただしそれは日本人があなたたちを見て畏怖の念 (sense of awe) を抱いているからですよ」と付け足している。

私たちのゼミでは、日本人学生 400 名と 12 国からの留学生 30 人に視線をめぐる思いについてアンケートと聞き取り調査を行い「見る・見られる」ことに関する実態と、日本人・留学生のナマの声を明らかにしてみた。国際関係学部の学生にふさわしい留学生との付き合い方について考える機会を提供したい。



## 2. 実態調査

日本大学国際関係学部 1、2 年生合計 250 名に「あなたはガイジンを見るかどうか」についてアンケート調査を行った。以下はその結果の一部である。

① 日常生活の空間に「ガイジン」がいたら ちらっも含めてつい見てしまう？
はい 84%      いいえ 16%
② ①の問いに「はい」と答えた人 → その見方は どのような感じ？
本当に 0.1 秒くらい、チラッと見てガイジンと意識する程度 75%
見ないふりをして、結構厳しくチェックしている 14%
わりとジロジロと見てしまう 11%
③ 見る対象がヨーロッパ系としたら、見る理由はどれ？

<u>かっこいいから</u>	<u>61%</u>	(とにかく全体的に；目の色など)
<u>とにかく好奇心</u>	<u>32%</u>	(話している言葉；ファッション；背の高さ)
<u>怖そうだから</u>	<u>4%</u>	(話かけられたら嫌；馬鹿にされていそう；攻撃されそう)
<u>嫌悪から</u>	<u>3%</u>	(習慣の違い；いかにもマナーの悪さ)

④ 見る対象がアフリカ系としたら、見る理由はどれ？

<u>かっこいいから</u>	<u>48%</u>	(アスリートみたい；アーティスト風；体つき；精悍さ)
<u>とにかく好奇心</u>	<u>32%</u>	(話している言葉；ファッション；体つき)
<u>怖そうだから</u>	<u>15%</u>	(話かけられたら嫌；攻撃されそう；馬鹿にされていそう)
<u>嫌悪から</u>	<u>4%</u>	(習慣の違い；マナーの悪さ；生理的に)
<u>理由なく</u>	<u>1%</u>	

⑤ ①の問いに「いいえ」と答えた人 → なぜ見ないのか その理由は？

<u>特に興味ないから</u>	<u>72%</u>	；	<u>相手に失礼だから</u>	<u>6%</u>	；	<u>その他</u>
-----------------	------------	---	-----------------	-----------	---	------------

⑥ アジア系・日本人のような人が外国語を話していたら見てしまいますか？

<u>はい</u>	<u>68%</u>	<u>いいえ</u>	<u>32%</u>
-----------	------------	------------	------------

⑦ ⑥の問いに「はい」と答えた人 → なぜですか？

<u>好奇心から</u>	<u>72%</u>
<u>外国語を話しているのはかっこいいから</u>	<u>21%</u>
<u>外国語を話していることへの嫌悪感から</u>	<u>4%</u>
<u>外国語を話しているのは怖そうだから</u>	<u>3%</u>

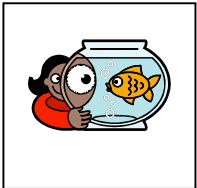


⑧ ⑥の問いに「いいえ」と答えた人 → なぜですか？

<u>興味がないから</u>	<u>73%</u>	；	<u>相手に失礼だから</u>	<u>18%</u>	；	<u>その他</u>	<u>9%</u>
----------------	------------	---	-----------------	------------	---	------------	-----------

⑨ 日本にいる「ガイジン」は、日本人がいつも自分たちをジロジロ見ていると言います。彼らはどんな気持ちでいると思いますか。

<u>日本人に囲まれて不安で怖がっている</u>	<u>44%</u>
<u>異国で何かと自意識過剰になりすぎている</u>	<u>22%</u>
<u>日本人が注目していると自惚れている</u>	<u>6%</u>
<u>彼らの気持ちなんて考えたこともない</u>	<u>28%</u>



⑩ 日本にやってくるアメリカ人留学生向けのウェブサイトには、日本人が彼らを見るのは畏怖や畏敬の念（うわあ、すごいなあ、とおそれおののくような気持ち）を持っているからと書いてあります。これを知ってどう思いますか。

その通りだ、よくわかっていると感心する	38%
そんな風に思っていたとは・・・もう見ない	24%
馬鹿にされているようだが 仕方ない	19%
その他	17%
ふざけるなど怒りを感じる	2%

⑪ 人をジロジロ、チラチラ見るのはマナー違反と子供の頃に教わりましたか？  
 はい 70%； いいえ 18%； 最近ようやくわかってきた 12%

⑫ 同じ日本人同士からジロジロ見られたらどう思いますか  
 自分はどこかへんだらうかと気になる 47%  
 自分に何か用か関心があるのかと気になる 15%  
 失礼な、と腹が立つ 8%  
 目立っていると嬉しくなる 1%  
 その他（別に何も感じない等） 29%

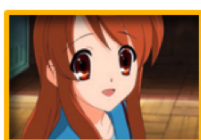


⑬ ジロジロ・・・はマナー違反、日本人同士でも嫌とわかったら、今後ガイジンを・・・  
 チラ見もガン見もしないようにしようかと・・・ 55%  
 やはりどうしても見てしまうと思う・・・ 45%

総じて、『ガイジン=かっこいい・可愛い人』という思い（込み）を当然視している学生が多いようだ。「人が魅力的な異性を見ることはごく自然なこと」という心理学の説もある。もし「ガイジン」を見る理由が「魅力だから」というのなら、それは「ごく自然なこと」だろうが、もう少し客観的な調査が必要だ。

見る理由として「違い」に対する単純な好奇心を挙げる人が多く、その理由も好意的感情が背景にあるようだ。ただ「怖いから」「嫌悪から」見るという人たちもいたことに注目したい。「話しかけられたら困る」という気持ちから見てしまう場合もある。いずれにしても彼らに話しかけて知り合いたい気持ちは非常に弱いことがわかる。また見る対象の人種・文化・国籍によって見る理由（好意か嫌悪か）が変わることに注目が必要だ。

### 3. 見る理由とその「表現方法」



次に考えたいことは視線には種類があるということだ。上のイラストを用いて説明する。左から①好意；②感動；③表情に出さずに興味津々；④無関心；⑤敵対心一とする。

上のアンケート調査とは別に、本学部の2、3年生150人に「アメリカ人留学生がいたら見るか」という聞き取り調査を行い、「かっこいい」と感じる理由をさぐってみた。

『ヨーロッパ系は足が長くてかっこいいと思うので見る。』（2年男子）

『鼻が高かったり、目が大きかったり、綺麗だなあと思うから。』（2年女子）

『アメリカ人は筋力的な面で体格が異なるので、そこに憧れます。』（2年男子）

『アフリカ系の身体能力の高さ、筋肉の柔らかさ、天性のバネに憧れる。』（2年男子）

『彼らが食事をしたり、単に会話をしているところに興味がある。』（3年 女子）

『日本人と違った価値観や意識を持っていることががにじみ出ているようで、うらやましくてつい見てしまう。』（3年 女子）

一方「見ない理由」として以下のような意見があがった。

『ジロジロ見たりすると、逆に自分が周りから不審に思われるだろう。』（3年 男子）

『外国人以前に他人（日本人も含める）をじろじろ見るのは失礼』（3年 女子）

『グローバル化が進行している現在、外国人を珍しいと思わなくなった。』（3年 男子）

彼らを見るのは、外見的なものだけでなく、大胆さ・自由さなど内面的なところにも興味や憧れを抱いているからのようだ。これは一見彼らの人間性をも評価しようとしているようで決して悪意ではない。また見ない理由にも配慮の気持ちがあるようだ。

しかしそうした意図はイラストの①②③のどの視線を伴うかによって、受け取り手は全く異なる印象を持つことがわかるだろう。憧れの目で見るといっても、イラストの②のような見られる側は不快感を感じるかもしれないし、③ではそうした気持ちは全く伝わらない。「見ない」という気持ちが④の態度で現れたらこれも不愉快であろう。⑤の視線で留学生を見る学生は果たしているだろうか。

#### 4. 外国人留学生の気持ち

このキャンパスに半期ー1年間滞在したアメリカ人留学生は、日本人学生から「見る・見られる」ことをどう考えているか。彼らの意見を紹介する。

##### 留学生 A の場合

三島の店に入ったとき、店にいる全ての人々が僕を見つめました。それは悪意でも何でもないことはだんだんわかってきましたが、慣れるのは相当時間がかかりました。つまり



全ての人が白い洋服を着ているのに、僕だけ真っ黒の服を着ている一目立っている理由はそういうことかと感じました。だけど最も大きな葛藤は、僕が受ける注目の量です。僕は日本社会に溶け込みたいのに、とにかく日々の状況で目立ってしまう・・・日本語を話そうとがんばって日本人がそれを手伝ってくれようとするときも、僕は自分が目立ってしまい、自分は邪魔な存在で、みんなの時間を止めてしまってるのではないかと落ち込みました。

### **留学生 B の場合**

三島のヘアサロンでの面白いエピソードがあります。私の髪を切っていたスタイリストが、私の髪の質感と色を見せようと2人のスタッフを呼びました。日本人の女の子の多くは私の髪の色にしたがるけれど、たいていオレンジ色に失敗してしまうから、と説明し、私のナチュラルなライト・ブラウンの色は、ハーフでないと持てない色合いだと言っていました。私はそう言われてどう感じたか覚えていません。今振り返って考えると彼はきっと私の髪と色をほめてくれただけ、と思います。でもそう言われた時は一瞬、自分は日本では本当にマイノリティで、異質の存在なのだ・・・と感じてしまったと思います。

### **留学生 C の場合**

僕は韓国系アメリカ人なので、身体的特徴はアジア人です。僕は日本人ととても似ているから公共の場でジロジロと見られたことはないし、日本人も僕のことをガイジンと行って避けることはないです。僕たちにはアジア人に共通のメンタリティーがあるから、非アジア系アメリカ人より僕と友達になる方が簡単とってるでしょう。だけどアジア系アメリカ人は白人系アメリカ人より上手な日本語を話すのが当然と、日本人は思っているようですね。僕が日本人の言うことが理解できないと、変な目つきで見られてしまいます。一方、僕が流暢に英語を話すのを聞くと、僕のことを威張ってる、気取っている、嫌味だと考える日本人もいるみたい。これはおかしい話でしょう！

上の3名の他に、見られることを全く気にしないタイプ、差別されていると怒るタイプもあった。さらにヒスパニック系アメリカ人学生2名は、アメリカ社会でも子供の頃から、ヨーロッパ系の人々と比べた外見の違い・話し言語の違い（家族や友人とのスペイン語での会話）のため「見られていた」、と語った。そのうちの1名は「アメリカ社会では、見られていたのは差別だと思ったが、日本で見られているときは、アメリカ人に対する単なる好奇心だと思えるので、不思議な気分だ」と答えていた。

先のアンケート調査でも明らかになったように、私たちは、無意識に深く考えもせず単に彼らを「見て」いるようだが、「見られる」彼らの気持ちまで考える人はまずいない。彼らの様々な感情や考えを知るためには、ただ「見る」だけでは駄目なのだ。

## **5. 結論**

今回の調査で、ガイジンー特に欧米圏からの留学生たちを私たちは確かに見ていることがわかった。さらに留学生は「見られる」ことに想像をはるかに超えて敏感で、いろいろと考えていることがわかった。中には「自分はハリウッドスターに見えるんだろう」と自惚れている留学生も確かにいる。しかし気の毒なくらい神経を使う人たちもいる。



子供の頃から他人をジロジロ見ることは良くないと教わってきたり、自分自身が見られて嫌な思いをする経験があることはアンケート調査からも明らかだ。実際、「じろじろとみられてカッとなった」という暴力沙汰事件もある。外国人・日本人に関係なく、髪形や服装が奇抜な人、とにかく見た目が異なる人に対して反射的に見る習慣もある。ケガをして目立つほどの包帯をしていたり松葉杖を用いている人、ホームレスのような風情の人など。しかしそれは明らかに「あこがれ」のまなざしではない。理由もなく人を見るのは、仮に「好意」があっても文化交流では決してない。だからといって人種的に見た目が違う「ガイジン」を見ることは「差別」だから努力してでも「見ない」ふりをしようという気遣いが有効かどうかはわからない。

最近アメリカに留学した日本人学生に、アメリカ滞在中に見られてたかとたずねたところ、ジロジロ見られることは良くあると言っていた。ただしそれは人種的に顔つきや体系が違うので仕方がないことだ、とも言っていた。実は私たちが海外に行ってジロジロと見られることは普通にあることで、それを私たちは特に気にしない。アメリカ人学生と異なり、韓国・ケニア・アラブ首長国連邦などから来た留学生は「見る」「見られる」ことに寛容だった。「ガイジンは見て当然！でも悪意があるわけじゃない、好奇心ですよ、それはお互いさま」とのことで、日本で見られることに不快感を持っていないと答えた。さらに「見るだけじゃなくて、話しかけてね、そしたら僕も答えるから」とも付け加えていた。すると、アメリカとかヨーロッパの白人系の人びとが、欧米圏外の国々で暮らす場合に「見られる」ことに神経質になるということなのだろうか。それなら彼らに「まあ気にしないで、ガイジンを見るのが日本文化なのだから慣れなさい」とアドバイスすれば良いだろうか。

1つのヒントとして、昨年度このキャンパスで学んだアメリカ人学生の意見を紹介する。

僕が取り組みたい課題は、「私たちは人種のない社会になれないか」ということです。人種という考え方がある限り、僕らは常に互いに異なった存在になってしまいます。だけどそれに否定的な意味を持たせなければいいでしょう。僕たちは様々な異なる人種の背景をもつ人たちと共にグローバル化を進めていき、いつか人種の違いというのは「違う…それが何か?」という程度のものになってしまうのでないかーそうならいいのに、ということです。

見る・見ないにこだわることなく、お互いが嫌悪感や勝手なイメージを持たずに、どの国、どの場所でもすべての人が生活しやすい環境を作ろうとする努力と意識が必要だ。